



いま、あなたに伝えたい



法政大学総長
田中優子さん

私が総長を務める法政大学には「ダイバーシティ宣言」と「大学憲章」の2つがあり、それは私自身の思いともかなりつながっています。



ダイバーシティ宣言は女性の社会進出や働き方改革といった問題意識からはじまつたものですが、大学には障害のある人も多くいます。発達障害や身体障害など、さまざまな障害がある学生・教職員がいて、大学はそういう人たちと一緒に働きたり学んだりする空間でもあります。また、異なる宗教や文化、言語をもつて入ってくる留学生もあります。そうした状況を念頭において、性別だけではなく年齢、国籍、人種、民族、文化、宗教、障害、LGBTといったことを含んで多様性を一人ひとりの個性ととらえ、それを尊重する大学であるということを宣言しています。

これは今、グローバル化を求められる大学にとってとても大事なことです。グローバル化というと地球のなかの強い部分、たとえば白人中心主義や、アメリカを中心とした欧米の価値観などに引きずられがちです。しかし本当はそうではない

第1回

若い人たちに伝えたいこと



くて、グローバル化というのは多様化とともになければグローバル化の意味がないということを、この宣言では堂々と言っています。

それからもうひとつが大学憲章です。大学憲章には「自由を生き抜く実践知」とあります。自由というのは障害のある人にとっての自由とはなにかということも考えなければなりません。自由というと、なんでもできるということに思えてしまいますが、現実には自由とは自分の生き方をできるということなんですね。ですから人間を序列化して上方にいくことや、お金をたくさん得ることが自由なのではなく、自分自身をどういうふうに生きていけるかということが自由なのです。そこに障害の有無は関係ありません。ですが、関係がないと言い切るために、障害があつても自分自身の生

き方を貫いていけるような社会でなければなりません。

ダイバーシティ宣言と大学憲章は、障害ということを含みこんで、とても大事なメッセージを常に送っています。

●自分らしく生きるとは

日本は少子高齢化が進み、海外から入ってくる人も多くなり、なにか決定的な産業があるわけでもありません。そのようなさまざまな困難があるなかで自分だけいい思いをしようということはほとんど無理で、むしろその困難は一人ではのりこえられないことが多いです。だからこそ、社会のなかで対話を積み重ねて共有していくものをつくりながら、今ある困難を少しづつ乗りこえていくことが大切です。

自分らしく生きるというのは自分ひとりで生きるという意味ではなく、そのようないふなことではないでしょうか。



くと、グローバル化というのは多様化とともになければグローバル化の意味がないということを、この宣言では堂々と言っています。

それからもうひとつが大学憲章です。大学憲章には「自由を生き抜く実践知」とあります。自由というのは障害のある人にとっての自由とはなにかということも考えなければなりません。自由というと、なんでもできるということに思えてしまいますが、現実には自由とは自分の生き方をできるということなんですね。ですから人間を序列化して上方にいくことや、お金をたくさん得ることが自由なのではなく、自分自身をどういうふうに生きていけるかということが自由なのです。そこに障害の有無は関係ありません。ですが、関係がないと言い切るために、障害があつても自分自身の生

き方を貫いていけるような社会でなければなりません。

ダイバーシティ宣言と大学憲章は、障害ということを含みこんで、とても大事なメッセージを常に送っています。

日本は少子高齢化が進み、海外から入ってくる人も多くなり、なにか決定的な産業があるわけでもありません。そのようなさまざまな困難があるなかで自分だけいい思いをしようということはほとんど無理で、むしろその困難は一人ではのりこえられないことが多いです。だからこそ、社会のなかで対話を積み重ねて共有していくものをつくりながら、今ある困難を少しづつ乗りこえていくことが大切です。

自分らしく生きるというのは自分ひとりで生きるという意味ではなく、そのようないふなことではないでしょうか。